Release

フランクフルト・アム・マイン　　2024 年 4 月 25 日

ドイツ銀行、2024 年第 1 四半期において前年同四半期から 10%の増加 20 億ユーロの税引前利益を計上

前年同四半期を上回る利益成長は、主要な目標達成に向けた進展を促進

- 税引前利益は 10%増加し、20 億ユーロ、純利益は 10%増加し、15 億ユーロ
- 税引後平均有形株主資本利益率（RoTE）[1]は、前年同四半期の 8.3%から上昇し、8.7%
- 費用収益比率は、前年同四半期の 71%から改善し、68%

安定している金利環境下において回復力のある収益

- 主に手数料およびフィー収益の 11%の増加に起因して、純収益は前年同四半期から 1%増加し、78 億ユーロ
- オリジネーションおよびアドバイザリーの市場シェアの拡大とともに、債券および為替が好調
- 運用資産は、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体での 190 億ユーロの純資金流入を含む 720 億ユーロの増加

コスト・コミットメントの実行

- 利息以外の費用は、前年同四半期から 3%減少し、53 億ユーロ
- 調整済コストは、2024 年指針に沿って 6%減少し、50 億ユーロ

株主配当を支える堅調な自己資本、依然として抑制される信用リスク

- 株主配当の控除後および事業主導によるリスク・ウェイテッド・アセット（RWA）の増加の控除後の普通株式等 Tier1（CET1）資本比率は、13.4%
- レバレッジ比率は、2023 年第 4 四半期と同じく 4.5%
- 信用損失引当金は、2023 年第 4 四半期の 488 百万ユーロから 10%減少し、439 百万ユーロ、また貸出平均残高に対する割合は 25 ベーシスポイントから 30 ベーシスポイントの間とする 2024 年通年の指針の上限の範囲であることを再確認

2024 年第 1 四半期における*グローバル・ハウスバンク*戦略の継続的な実行

- 収益の伸び率：5.5%から 6.5%の間へと引き上げた 2021 年から 2025 年までの目標に沿い、2021 年以降の複合年平均の伸び率は 6.0%
- 業務効率：25 億ユーロの目標に向け、施策の完了により実現したまたは見込まれる費用削減は 14 億ユーロに増加
- 資本効率：2025 年末までの 250 億ユーロから 300 億ユーロの目標のうち、当四半期末までに 150 億ユーロの RWA の削減を達成

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのクリスティアン・ゼーヴィングは、「当四半期は、当行の*グローバル・ハウスバンク*戦略の規律ある実行により、2 桁の利益成長および 2013 年以来、最高の第 1 四半期利益を達成しました。」と述べました。「バランスの取れたビジネスモデルにより、金利が正常化する環境においても堅調な収益のモメンタムを創出しました。私たちはお約束どおり、当行のコスト目標を達成し、このコスト管理を維持する決意をしています。当行の強固な資本基盤は、ビジネスの成長をサポートしつつ、株主配当を増やすことを可能とします。あらゆる面で、私たちは 2025 年の目標に向けて継続的な成果を達成することにしっかりと取り組んでいます。」

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBGn.DB/NYSE:DB）は、本日、2024 年第 1 四半期の税引前利益が、前年同四半期から 10%増加して 20 億ユーロとなった旨を発表しました。税引後利益は、前年同四半期から 10%増加して 15 億ユーロとなりました。

ドイツ銀行の目標比率は、2023 年第 1 四半期と比較して改善しました。有機的資本の創出により、利益成長が有形株主資本の増加を上回ることで、税引後平均有形株主資本利益率（RoTE）[1]は、2023 年第 1 四半期の 8.3%から上昇して 8.7%となりました。2024 年第 1 四半期の税引後平均株主資本利益率（RoE）[1]は、前年同四半期の 7.4%から上昇して 7.8%となりました。費用収益比率は、前年同四半期の 71%から 68%に改善しました。希薄化後 1 株当たり収益は、前年同四半期の 0.61 ユーロから 0.69 ユーロに改善しました。

チーフ・ファイナンシャル・オフィサーのジェームス・フォン・モルトケは、「これはコミットメントを果たした四半期だった。」と述べました。「当行の収益と事業基盤の勢いは、キャピタルライト・ビジネス（少資本ビジネス）への投資と、顧客をサポートするための当行グループ全体の緊密なパートナーシップを反映しています。コスト、資本、バランスシートの厳格な管理は、テクノロジーと統制への継続的な投資と相まって、当行のプラットフォーム全体にわたる規律ある実行の結果となりました。」

グローバル・ハウスバンク戦略の継続的な実行

ドイツ銀行は、2024年第1四半期も引き続き*グローバル・ハウスバンク*戦略の実行を推し進めました。これには、以下が含まれました。

- **収益の伸び率**：2024 年第 1 四半期において、手数料およびフィー収益の前年同四半期からの 11%の増加が、金利の安定化に伴う純利息収益の減少を上回ったことで、収益は 1%増加しました。2021 年以降の過去 12 カ月間の当行の複合年平均収益の伸び率は、2024 年第 1 四半期末現在で 6.0%となり、当行の引上げ後の目標範囲である 5.5%から 6.5%の間となりました。運用資産は、2024 年第 1 四半期において、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体で、190 億ユーロの純資金流入を含め 720 億ユーロ増加し、これらの事業の将来的な収益の伸び率を支えることが期待されます。

- **業務効率**：当行は、2024 年第 1 四半期において、利息以外の費用を 53 億ユーロに削減するとともに、調整済コストを 2024 年の四半期ランレート目標に沿った 50 億ユーロに削減しました。ドイツ銀行は、2024 年第 1 四半期において、25 億ユーロの業務効率化プログラムをさらに進展させ、これには、ドイツにおける当行のプラットフォームの最適化および特に非顧客対応業務における人員削減が含まれます。効率化施策の完了により実現した、または見込まれる費用削減は 14 億ユーロに増加し、そのうち、当四半期末までに実現した費用削減は約 10 億ユーロです。

- **資本効率**：ドイツ銀行は、2024 年第 1 四半期において、証券化ならびにデータおよびプロセスの改善によりさらに 20 億ユーロの RWA を減少させました。その結果、資本効率化施策による RWA の累積削減額は 150 億ユーロに達し、2025 年までに 250 億ユーロから 300 億ユーロの最適化を行うとする当行の目標に向けてさらに前進しました。当行は、2024 年 3 月 4 日に開始した自社株の買戻しプログラムを進め、2024 年 4 月 19 日現在、20.6 百万株を総額 283 百万ユーロで買い戻しています。当行は、2024 年上半期末までに現在のプログラムを実質的に完了させる予定です。

厳しい状況下における収益の増加

純収益は、グループ全体では前年同四半期から 1%増加して 78 億ユーロとなり、当行の四つの中核ビジネス[2]全体では 3%増加しました。手数料およびフィー収益は、キャピタルライト・ビジネスの分野を成長させるという経営陣の目標を反映して 11%の増加となりましたが、金利が安定している環境下において純利息収益が予想どおり前年同四半期から減少したことにより一部相殺されました。当行の各ビジネスにおける収益の推移は、以下のとおりです。

- **コーポレート・バンクの純収益**は、現在の金利サイクルの収益ピークとなった 2023 年第 1 四半期から 5%減少し、19 億ユーロとなりました。純利息収益は、預金収益の正常化、貸出金純利息収益の減少および欧州中央銀行（ECB）による最低準備金報酬の廃止を反映し、予想どおり前年同四半期を下回りました。これは、手数料およびフィー収益の増加により一部相殺されました。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は、10%減少して 11 億ユーロとなりましたが、機関投資家向けサービスの収益が 4%増加して 463 百万ユーロとなったことおよびビジネス・バンキングの収益が 3%増加して 346 百万ユーロとなったことにより、一部相殺されました。ドイツ銀行は、*ユーロマネー*の 2024 年トレード・ファイナンス・サーベイにおいて、2023 年の 14 のカテゴリーから増加して、12 年連続のドイツにおけるベスト・トレード・ファイナンス・バンクおよび 7 年連続の西ヨーロッパにおけるベスト・トレード・ファイナンス・バンクを含む 17 のカテゴリーで第 1 位を獲得しました。

- **インベストメント・バンクの純収益**は、2023 年第 1 四半期から 13%増加し、30 億ユーロとなりました。債券および為替（FIC）の収益は、7%増加して 25 億ユーロとなりました。これは、主に堅調な証券化および発行活動を反映し、資金調達業務の収益が前年同四半期から 14%増加して 805 百万ユーロとなったことが一因となりました。クレジット・トレーディングの収益は、これまでの期間の投資効果を反映し、前年同四半期から大幅に増加しました。エマージング・マーケッツの収益も大幅に増加し、全地域で伸びた他、ラテン・アメリカでは投資に牽引された顧客取引が好調となりました。外国為替収益も増加しましたが、これは前年同四半期に影響を与えた 2023 年 3 月の極端な金利ボラティリティおよび市場の混乱が再発しなかったことならびにビジネスモデルの再構築による利益が顕在化したことによるものでした。これらの分野での成長は、前年同四半期の非常に高い水準からの金利の収益の減少を上回るものとなりました。オリジネーションおよびアドバイザリーの収益は、54%増加して 503 百万ユーロと 9 四半期ぶりの高水準となりました。これはレバレッジド・デット・マーケットの回復および投資適格債券発行が堅調であることを反映し、前年同四半期から 67%増加して 355 百万ユーロとなった債券オリジネーションの収益が牽引し、この増加は、市場活動の改善および市場シェアの拡大も反映したものであり、ドイツ銀行のオリジネーションおよびアドバイザリー事業の世界シェアは、2023 年から約 70 ベーシスポイント改善し、2024 年第 1 四半期には 2.6%となりました（出所：*ディールロジック*）。

- **プライベート・バンクの純収益**は、純利息収益のわずかな減少が利息以外の収益の拡大を目指す事業戦略に沿った投資商品の成長によって一部相殺されたため、前年同四半期から 2%減少して 24 億ユーロとなりました。パーソナル・バンキングの収益は、ヘッジ費用の増加および最低準備金報酬の廃止の影響を含む資金調達コストの増加を反映しましたが、預金収益の増加により一部相殺されたことを受けて、前年同四半期から 4%減少しました。ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングの収益は、預金収益の減少が貸出および投資商品収益の増加によって相殺されたため、前年同四半期から横ばいとなりました。運用資産は、2024 年第 1 四半期において 270 億ユーロ増加して 6,060 億ユーロとなり、2018 年のプライベート・バンクの設立以来の最高水準となりました。かかる増加の一因は、ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングにおける投資商品への純資金流入 60 億ユーロを含む、過去 12 四半期で最高となる 120 億ユーロの純資金流入によるものでした。2024 年第 1 四半期末に発表された*ユーロマネー*の「2024 年グローバル・プライベート・バンキング・アワード」において、ドイツ銀行は「ワールド・ベスト・フォー・アントレプレナーズ」、「ワールド・ベスト・フォー・ウルトラ・ハイ・ネット・ワース」および「ジャーマニーズ・ベスト・ドメスティック・プライベート・バンク」を含む 15 部門で受賞しました。

- **アセット・マネジメントの純収益**は、前年同四半期から 5%増加し、617 百万ユーロとなりました。マネジメント・フィーは、主に流動性の高い商品における平均運用資産の増加に牽引され、4%増加して 592 百万ユーロとなりました。運用報酬および取引手数料は、オルタナティブ運用業務における取引手数料の増加を反映し、56%増加して 17 百万ユーロとなりました。純資金流入は 80 億ユーロ（キャッシュ商品控除後では 90 億ユーロ）となり、これは主にパッシブ商品によって牽引されました。純資金流入には、環境・社会・ガバナンス（ESG）商品

への 20 億ユーロが含まれます。運用資産は、四半期連続の好調な純資金流入および市場水準の上昇を反映して、2024 年第 1 四半期において 450 億ユーロ増加して 9,410 億ユーロとなり、前年同四半期末現在の額を 1,010 億ユーロ上回りました。

費用：四半期ごとの調整済コストへのコミットメントに沿った実行

2024 年第 1 四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から 3%減少して、53 億ユーロとなりました。調整済コストは、6%減少して 50 億ユーロとなり、2024 年の四半期ランレートに関する当行の指針と一致し、前年同四半期比での営業関連以外のコストの増加を上回りました。

調整済コストは 6%減少し、50 億ユーロとなりましたが、これは主に銀行税の減少を反映したもので、前年同四半期比での報酬関連費用の 9%の増加を上回りました。この減少は、英国におけるヌミスの買収を含む事業成長への投資に加え、テクノロジーおよび統制へのさらなる投資ならびに外部スタッフの継続的な内部雇用を反映し、2023 年第 1 四半期と比較して社内の（従業員）常勤相当が 3,611 名増加したことに一部影響を受けたものでした。投資および内部雇用は、当行の業務効率化プログラムの一環としての人員削減により一部相殺されました。

営業関連以外のコストは、2023 年第 1 四半期の 89 百万ユーロから増加し、262 百万ユーロとなりました。訴訟費用は、前年同四半期の 66 百万ユーロから増加して 166 百万ユーロとなり、再編および退職費用は、前年同四半期の 23 百万ユーロと比較して 95 百万ユーロとなりました。これは、当行の業務効率化プログラムの実施に一部影響を受けたものでした。

再確認された通年の指針により、信用損失引当金は 2023 年第 4 四半期から減少

信用損失引当金は、2023 年第 4 四半期の 488 百万ユーロから減少して 439 百万ユーロとなり、貸出平均残高に対する割合は 37 ベーシスポイントとなりました。不良債権（ステージ 3）に対する引当金は 471 百万ユーロとなり、2023 年第 4 四半期の 457 百万ユーロから 3%増加しました。これは、プライベート・バンクにおける引当金に起因するもので、業務受注残高に関連する引当金が含まれますが、業務受注残高の処理に伴い、今後の四半期で部分的に戻し入れられる見込みです。また、インベスト・バンクにおける引当金にも起因しており、既に公表されているとおり、商業用不動産エクスポージャーに係る引当金の影響を引き続き受けています。

2023 年第 4 四半期の 30 百万ユーロの引当金と比較して、マクロ経済予測の改善およびモデルの再調整効果により 32 百万ユーロとなった正常債権（ステージ 1 およびステージ 2）の純戻入れが、かかる減少を上回りました。2024 年通年の信用損失引当金は、既に公表されている指針の範囲の上限である、貸出平均残高の 25 ベーシスポイントから 30 ベーシスポイントの間を維持する見通しです。

堅調な自己資本比率が株主への配当および事業成長を支える

2024 年第 1 四半期末現在の**普通株式等 Tier1（CET1）資本比率**は、2023 年第 4 四半期末現在の 13.7%と比較して 13.4%となりました。2024 年第 1 四半期の堅調な収益を通じた有機的資本の創出は、2024 年 1 月に ECB が承認した 675 百万ユーロの自社株の買戻しプログラムの控除、および 2024 会計年度について配当性向 50%を目指すとする当行のコミットメントに沿った将来の資本分配の控除を一部相殺し、2024 年第 1 四半期の RWA は、事業成長が大きく影響し、50 億ユーロ増加して 3,550 億ユーロとなりました。

2024 年第 1 四半期末現在の**レバレッジ比率**は、2023 年第 4 四半期末現在とほぼ変動なく 4.5%となりました。トレーディング関連のエクスポージャーの増加が現金残高の減少により相殺されたため、**レバレッジ・エクスポージャー**も、ほぼ変わらず 1 兆 2,540 億ユーロとなりました。

2024 年第 1 四半期末現在の**流動性カバレッジ比率**は、2023 年第 4 四半期末現在の 140%と比較して 136%となり、規制要件である 100%を上回り、超過額は 580 億ユーロとなりました。2024 年第 1 四半期末現在の質の高い流動性資産は、2023 年第 4 四半期末現在からわずかに増加して 2,220 億ユーロと

なりました。**安定調達比率**は、当行の目標範囲である 115%から 120%を上回る 123%となり、要求水準に対する超過額は 1,120 億ユーロとなりました。顧客預金は、2024 年第 1 四半期において 130 億ユーロ増加し、6,350 億ユーロとなりました。

2024 年 5 月 16 日に開催されるドイツ銀行の年次株主総会に向けて、取締役会および監査役会は、2023 会計年度について 2022 会計年度から 50%増配の 1 株当たり 0.45 ユーロの現金配当の支払いを提案しました。

サステナブル・ファイナンス：2020 年以降の累積取引高は 3,000 億ユーロに到達

2024 年第 1 四半期の**環境・社会・ガバナンス（ESG）関連ファイナンスおよび投資の取引高（DWS を除きます。）**[3]は 210 億ユーロで、2020 年 1 月 1 日以降の累積取引高は 3,000 億ユーロとなりました。2024 年第 1 四半期におけるドイツ銀行の各事業部門は、以下のとおり貢献しました。

- **コーポレート・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高は 60 億ユーロとなり、2020 年 1 月 1 日以降の当事業部門の累積取引高は 590 億ユーロに増加しました。

- **インベストメント・バンク**：130 億ユーロ（サステナブル・ファイナンスの取引高 30 億ユーロおよびサステナブル関連資本市場発行高 90 億ユーロを含みます。）となり、2020 年 1 月 1 日以降の当事業部門の累積取引高は 1,790 億ユーロに増加しました。

- **プライベート・バンク**：ESG 運用資産および顧客への新規貸出しにおける 30 億ユーロの増加により、2020 年 1 月 1 日以降のプライベート・バンクの累積取引高は 620 億ユーロに増加しました。

2024 年第 1 四半期において、ドイツ銀行は、オートモーティブ・セルズ・カンパニー社の 44 億ユーロのノンリコース・プロジェクト融資に参加し、欧州全域におけるリチウムイオン電池セル生産用の三つのギガファクトリーの開発を可能にしました。また、当行は、改定されたサステナブル・ファイナンス・フレームワークを発表しました。これにはファイナンスを持続可能なものとして分類するために更新された基準およびソーシャル・ボンド発行のための新たなサステナブル・インストルメント・フレームワークが含まれています。格付機関である ISS ESG は、このフレームワークに対して最高評価を付与しました。

ドイツ銀行は、非営利格付機関である CDP（旧カーボン・ディスクロージャー）からの格付が引き上げられ、これは、当行がすべてのカテゴリーにおいて業界平均を上回っていることを示しています。当行の 2024 年度年次株主総会において、経営陣は、2024 年の取締役の報酬の一部を法人向け貸出ポートフォリオに係る炭素排出セクター別の目標に連動させるとする当行の提案について、株主と協議する予定です。

グループ業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2024 年 3 月 31 日に 終了した 3 カ月間	2023 年 3 月 31 日に 終了した 3 カ月間	変動額	増減 (%)
純収益合計:	**7,779**	7,680	99	1
内:				
コーポレート・バンク(CB)	1,878	1,973	(94)	(5)
インベストメント・バンク(IB)	3,047	2,691	355	13
プライベート・バンク(PB)	2,378	2,438	(60)	(2)
アセット・マネジメント(AM)	617	589	28	5
コーポレートおよびその他(C&O)	(140)	(10)	(130)	N/M
信用損失引当金	**439**	372	68	18
利息以外の費用	**5,305**	5,457	(152)	(3)
税引前利益(損失)	**2,036**	1,852	183	10
利益(損失)	**1,451**	1,322	129	10
ドイツ銀行株主に帰属する利益(損失)	1,275	1,158	117	10
普通株式等 Tier1 資本比率[1]	13.4%	13.6%	(0.2)ppt	N/M
レバレッジ比率[1]	4.5%	4.6%	(0.2)ppt	N/M

N/M:意味のある比較不能
過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されています。
1 期末現在

1 本項目およびその他の GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細については、2024 年第 1 四半期補足財務データ(英文)の 15 頁から 20 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」および 2024 年 3 月 31 日付の収益報告書(英文)の 50 頁から 53 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」をそれぞれご参照ください。

2 コーポレート・バンク、インベストメント・バンク、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント

3 累積 ESG 取引高には、2021 年 5 月 20 日開催のドイツ銀行のサステナビリティ・ディープ・ダイブでの決定に従い、コーポレート・バンク、インベストメント・バンクおよびプライベート・バンクにおける、2020 年 1 月 1 日から当四半期末までのサステナブル・ファイナンス(フロー)および投資(ストック)が含まれています。対象となる商品には、資本市場における発行(ブックランナーを務めた分のみ)、サステナブル・ファイナンスおよび当四半期末現在の運用資産が含まれます。累積取引高および目標には、DWS により別個に報告される、DWS の ESG 運用資産は含まれません。

ESG 分類

当行は、サステナブル関連ファイナンスおよび投資の取引を「Sustainable Financing framework - Deutsche Bank Group(サステナブル・ファイナンスのフレームワーク-ドイツ銀行グループ)」(英文)(https://investor-relations.db.com/から入手可能です。)において定義しました。当行の目標における累積の定義に鑑みて、フレームワークに照らした検証が報告する四半期末までに完了できない場合には、取引高は翌四半期以降において検証が完了次第報告されます。アセット・マネジメントでは、DWS が、関連法規(規則(EU)2019/2088-SFDR を含みます。)、市場標準および社内開発を考慮して、独自の ESG 商品分類フレームワーク(以下「ESG フレームワーク」といいます。)を 2021 年に導入しました。ESG フレームワークについては、DWS の 2021 年の年次報告書(英文)の「当行の商品-主な概要/ESG 商品分類フレームワーク」の表題のもとで詳しく記載されており、https://group.dws.com/ir/reports-and-events/annual-report/から入手可能です。2024 年第 1 四半期において、ESG フレームワークの変更はありません。DWS は、今後策定される規制および市場実務に応じて ESG フレームワークを発展させ精緻化していきます。

ドイツ銀行の事業の 2024 年第 1 四半期の業績の詳細は、2024 年 3 月 31 日付の収益報告書(英文)により入手可能です。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資、資産運用の商品およびサービスならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、当行の考えおよび予想ならびにその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行の経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。したがって、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、ドイツ銀行はこれらの記述に関して、新しい情報または将来生起した事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。したがって、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。

これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当行が収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当行の経営戦略の実施、当行のリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当行の 2024 年 3 月 14 日付 Form 20-F の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該文書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

会計の基準

上記の当行の業績は、国際会計基準審議会（IASB）により発行され、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、2020 年以降、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付固定金利モーゲージの適用（以下「EU カーブアウト」といいます。）が含まれます。EU カーブアウトに基づく公正価値ヘッジ会計は、各テナーのプールにおける金利のプラス・マイナス両方の動きに対する会計エクスポージャーを最小限に抑えることで、トレジャリーの活動により報告される収益のボラティリティを削減するために用いられます。

2024 年 3 月 31 日に終了した 3 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 403 百万ユーロ、利益に 287 百万ユーロのプラスの影響をもたらしました。2023 年 3 月 31 日に終了した 3 カ月間について、EU カーブアウトの適用は、当行の税引前利益に 97 百万ユーロ、利益に 70 百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EU カーブアウトを伴う IAS 第 39 号を用いて報告しています。2023 年 3 月 31 日現在について、EU カーブアウトの適用は、CET1 資本比率に約 2 ベーシスポイントのプラスの影響をもたらしたのに対し、2024 年 3 月 31 日現在については、約 33 ベーシスポイントのマイナスの影響をもたらしました。いずれの期においても、EU カーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP 以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP 以外の財務的測定尺度とは、当行の過去もしくは将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、ドイツ銀行の財務諸表において IFRS に従って計算および表示された最も直接的に比較可能な尺度から、場合により、これに含められている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行の GAAP 以外の財務的測定尺度およびこれと最も直接的に比較可能な IFRS の財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度	最も直接的に比較可能なIFRSの財務的測定尺度
各部門におけるドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）、各部門におけるドイツ銀行株主およびその他の資本構成要素に帰属する利益（損失）	利益（損失）
特定項目を除く収益、通貨換算の影響を調整したベースでの収益	純収益
調整済コスト、通貨換算の影響を調整したベースでのコスト、営業関連以外のコスト	利息以外の費用
純資産（調整済）	資産合計
有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主資本合計（帳簿価額）
税引後平均株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、税引後平均有形株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）	税引後平均株主資本利益率
基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産	流通株式1株当たり資産

特定項目を除く収益は、一般的に事業の通常の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲させてしまう可能性のある特定収益項目を指し、IFRS に基づく純収益を調整して計算されます。除外項目は、債券の評価調整額（DVA）および本質的に 1 回限りの項目または損益の影響が特定の期間に限定される関連取引もしくは事象のポートフォリオに属する重要な取引もしくは事象です。

通貨換算の影響を調整したベースでの収益およびコストは、ユーロ以外の通貨建てで発生しまたは被った過去の会計期間の収益およびコストを、当該会計期間における外国為替レートによりユーロに換算することで計算します。これらの調整後の数値およびそれに基づく過去の会計期間との比較によるパーセンテージの変化は、基礎となる取引高の状況についての情報を提供することを意図しています。

調整済コストは、IFRS に基づく利息以外の費用から、(i)のれんその他の無形資産の減損、(ii)正味の訴訟費用ならびに(iii)再編費用および退職費用（併せて**営業関連以外のコスト**と総称します。）を控除して計算されます。